

〈研究ノート〉

日本語版作家名再認テスト作成のための 予備調査

— 日本人高校生における読書量測定のための
予備調査データの検討 —

長谷川 文 子

要 旨

本稿は、「日本語版作家名再認テスト」作成のために実施した予備調査の結果を中心に報告するものである。「作家名再認テスト」とは、学校外における読書量を測るのに信頼度が高い指標として海外では広く使われてきた調査であるが、国内における研究はまだ極めて少ない。大学生を対象とした日本語版作家名再認テストは小山内ら（2015）によって作成されているが、高校生を対象とした再認テストはまだ開発されていない。そこで本研究では、高校生を対象とした日本語版作家名再認テストの項目化を検討し、125項目からなる質問紙を作成した。調査は297名の高校生を対象として行った。本稿で報告する予備調査の結果をもとに、本調査で用いる項目の検討が今後の課題となる。

キーワード：読書量, 作家名再認テスト, Author Recognition Test

1. 問題と研究の目的

読書が認知機能に及ぼす影響については、これまでに多くの教育心理学的研究が行われてきた。海外の蓄積されたデータによって、読書量と言語

能力、歴史や文化に関する知識量、論理的推論能力などの認知機能には正の関係があることが明らかとなっている。近年、欧米圏を中心に、読書が言語能力に与える影響についての研究が継続的に行われており、言語能力のサブスキルとされる語彙力、書字能力、文章理解力、文法力、読解速度、流暢さと読書量の間に緊密な相互関係が存在することが報告されている。このことから、読書経験や読書習慣が読解力を育成し、言語能力を高めるのに効果があると考えられている (Stanovich, 1986; Cain, Lemmon, & Oakhill, 2004; Cain, Oakhill, & Elbro, 2003; Swanborn & de Gopper, 1999, 2002; Krashen, 1993a, 1993b; Pressley, 2002)。

読書量の測定法には、質問紙法（読書頻度、読書冊数、読書時間、所有本冊数などの普段の読書習慣の自己報告）、生活時間帯調査、活動選好調査、日誌法、再認テスト法、図書貸出数などがある。この中でも海外で最も広く用いられているものが再認テスト法で、作家名再認テスト (Author Recognition Test, ART; Stanovich & West, 1989) とタイトル再認テスト (Title Recognition Test, TRT; Cunningham & Stanovich, 1990) が代表的な推定法である。作家名再認テストは、Stanovich and West (1989) によって開発され、以後、学校外における読書量を測るのに信頼度が高い指標として広く使われてきた。ART が大学生や成人を対象とした研究で使用される一方、児童を対象とした研究では、Cunningham and Stanovich (1990) が作成した TRT が多く用いられている。作家名再認テストは、実在する本の作家名（ターゲット）と実在しない偽の作家名（フィラー）を混在させたリストを提示し、「あなたが知っている作家名に○をつけて下さい」と参加者にチェックさせるものである。リストに含める実在の作家名は、各ジャンルの著名な人気作家の名前を売上ランキングなどを参考に収集し、予備調査によって選別する。フィラーよりもターゲットに多く○を付けることができた程度を読書量の推定値とする。より正確に、より多くの作家名を知っている方が、たくさん読書をしている可能性が高い、と

いう考えに基づいている。この方法では、記憶に基づく指標であることから、故意に読書量を多めに申告することができず、回答が社会的望ましさなどに左右される可能性を排除できる。歪みの少ない読書量の相対的な個人差を測ることができることから、欧米圏の調査ではこれらの再認テストが読書量を推定するのに標準的に用いられている。TRTはARTの作家名を本のタイトルに置き換えたものである。

作家名再認テストを用いた調査は海外では盛んに行われている一方、国内においてははまだ極めて少ない。小山内ら（2015）は、大学生を対象とした作家名再認テストを Stanovich & West（1989）を参考にして作成した。作家名項目、フィルターとなる人名項目をそれぞれ 52 項目の計 104 項目を作成し、他の読書量推定指標との関連を検討した。その結果、日本語版作家名再認テストが相対的読書量の推定指標として妥当性を有すると報告している。小山内（2018）は、余暇活動の頻度、調査読書冊数調査、電子書籍の利用度調査に加えて小山内ら（2015）が作成した日本語版作家名再認テスト（ART-J）を用いて、保育、教育職を目指す学生の読書量を測定した。大竹ら（2019）は絵本知識を測定するために、養育経験や子どもに接する機会の少ない大学生、子どもや絵本に触れる機会のある保育学生、養育者を対象に絵本作家の著者リストを作成し、妥当性を検証した。その結果、著者リストの得点は、絵本の読み聞かせ環境の豊かさを反映する複数の指標と相関をもち、養育経験や子どもと接する機会の多さを反映していることからその妥当性が検証されたと報告している。

大学生以上を対象とした再認テストは存在するが、現在のところ、高校生を対象とした日本語版作家名再認テストは見当たらない。そこで本研究では、高校生を対象とした作家名再認テストの日本語版（JART: Japanese Author Recognition Test）の作成を試みる。この予備調査で得られたデータから各項目を採否し、本調査に使用する項目を選択する。

2. 予備調査

2.1 調査対象と調査期間

東京都と群馬県内の高校2・3年生297名（男性53名，女性244名）を対象に，知っている作家名を尋ねる質問紙調査を実施した。調査時期は2020年9月～10月で，調査先の各高校の英語担当教員に授業中5分程度で実施してもらった。回答者には学年・性別・年齢のみ記述してもらい，無記名式にて行った。

2.2 リストの選定方法

作家名は2010年1月から2020年8月までの各ジャンルの作家売上ランキングから抽出した。Stanovich and West (1989) が作成した基準に沿って，人気作家のみを123名抽出し，教科書など学校教育で触れることの多い作家名は除外した。本研究は本調査に向けての作家名選別を目的とした予備的調査のため，Chen and Fang (2015) の予備調査（ターゲット239項目，フィルター6項目）を参考に，実在する作家名123項目とフィルター2項目，計125項目で構成したリストを作成した。参加者に，作家名リストを呈示し，作家として知っている項目をすべて選択してもらった。

3. 結果と考察

実在する項目を選択した数（正反応数）から実在しない項目を選択した数（エラー数）を減じた値がART得点となるが，今回の調査でエラー数は確認できなかった。その結果，作家名再認テストの得点の平均値は7.78（最小値0－最大値108，SD = 8.89）であった。表1は作家名のチェック率の分布をまとめたもので，表2はチェック率の高かった上位56位までの作

表1 チェック率と作家名数の分布

チェック率	作家名数
90%-	0
80%-89%	0
70%-79%	2
60%-69%	0
50%-59%	3
40%-49%	1
30%-39%	2
20%-29%	0
10%-19%	10
1%-9%	77
0%	28

家名一覧とチェック率（作家名の選択率）を表している。

次に、本調査のために使用する作家名を採択した。Stanovich and West (1989) の ART では、実在する作家名は 52 項目で構成されているのを参考に、上位 52 位までを採否の基準とした。そのうち、チェック率 1 位となった項目に関しては、作家としてよりもむしろ本業における知名度が高いので、本調査のリストからは除外することにした。これにより、2 位から 53 位までの 53 項目（53 位は 2 項目あるため）を本調査で使用するリストにおいてターゲットにする。同数のフィラーは、公刊されているライトノベル作品から登場人物名を抽出し、その姓と名を無作為に組み合わせて作成していく。

しかし、作家名や本のタイトルを知っていることが、必ずしもその本を読んだことにはならないという問題点も再認テスト法には指摘されていることから、この点を改善した Martin-Chang and Gould (2008) の質問用紙を参考にし、本調査のリストを作成する。Martin-Chang and Gould は、作家名再認テストの概念を PPK (primary print knowledge) と SPK (secondary print knowledge) の 2 つの側面に分け、Stanovich and West

表2 上位56位の作家名リストとチェック率

順位	作家名	チェック数	チェック率
1	又吉直樹	220	78.85
2	新海誠	202	72.40
3	村上春樹	160	57.35
4	東野圭吾	154	55.20
5	住野よる	147	52.69
6	湊かなえ	118	42.29
7	あさのあつこ	84	30.11
8	池井戸潤	83	29.75
9	朝井リョウ	53	19.00
10	宮部みゆき	47	16.85
11	重松清	46	16.49
12	よしもとばなな	43	15.41
13	星新一	33	11.83
14	有川浩	32	11.47
15	三浦しをん	31	11.11
16	恩田陸	30	10.75
16	辻村深月	30	10.75
18	瀬尾まいこ	27	9.68
19	川村元氣	25	8.96
19	司馬遼太郎	25	8.96
19	西尾維新	25	8.96
22	有栖川有栖	22	7.89
22	森絵都	22	7.89
24	赤川次郎	21	7.53
25	伊坂幸太郎	20	7.17
26	西加奈子	19	6.81
26	西村京太郎	19	6.81
28	七月隆文	18	6.45
28	百田尚樹	18	6.45
30	ブレイディみかこ	15	5.38
30	綿矢りさ	15	5.38
32	原田 マハ	14	5.02
33	いとうせいこう	13	4.66
33	松本清張	13	4.66
35	乾くるみ	12	4.30
36	荻原浩	11	3.94
36	知念実希人	11	3.94
38	綾辻行人	10	3.58
38	村上龍	10	3.58
40	冲方丁	9	3.23
40	桜庭一樹	9	3.23
42	浅田次郎	8	2.87
42	角田光代	8	2.87
42	京極夏彦	8	2.87
42	佐野徹夜	8	2.87
42	村田沙耶香	8	2.87
47	江國香織	7	2.51
47	小川洋子	7	2.51
47	宗田理	7	2.51
47	梨木香歩	7	2.51
47	森見登美彦	7	2.51
47	横山秀夫	7	2.51
53	暁なつめ	6	2.15
53	上橋菜穂子	6	2.15
56	青柳 碧人	5	1.79
56	石田衣良	5	1.79
56	小野不由美	5	1.79
56	海堂尊	5	1.79
56	筒井康隆	5	1.79
56	中村文則	5	1.79
56	凧良ゆう	5	1.79
56	宮下奈都	5	1.79

(1989) のテストに質問項目を追加することで、より正確な実際の読書量の推定方法となる CART (Chinese Author Recognition Test) を開発した。回答者が作家名を知っているか、知らないかだけでなく、(1)この作家の名前は聞いたことがあるが、読んだことはない、(2)この作家の本を読み始めたが、最後までは読まなかった、(3)この作家の本を1冊以上読んだことがある、の選択肢を追加した。これにより、「名前は知っている」と「過去に読んだことがある」を区別することができ、実際の読書量をより正確に測定できると考えた。

そこで、本調査に使用する日本語版作家名再認テスト作成にあたり、本稿で選別した53の作家名(ターゲット)と実在しない作家名(フィラー)を同数作成し、Martin-Chang and Gould (2008) の質問紙に従って選択肢を作る。回答者には、(1)知らない、(2)この作家の名前は聞いたことはあるが、1冊も読んだことはない、(3)この作家の本を実際に手に取って読み始めたが、最後まで読まなかった、(4)この作家の本を1冊以上読んだことがある、の4つの選択肢を与え、チェックをしてもらう形式で本調査を行う。次に実施する本調査では、他の読書推定指標との関連によって相対的読書量の推定指標として妥当性を有するのかが検討を行う。

参考文献

- Cain, K., Lemmon, K., & Oakhill, J. (2004). Individual differences in the inference of word meanings from context: The influence of reading comprehension, vocabulary knowledge, and memory capacity. *Journal of Educational Psychology, 96* (4), 671-681.
- Cain, K., Oakhill, J. V., & Elbro, C. (2003). The ability to language comprehension difficulties. *Journal of Child Language, 30* (3), 681-694.
- Chen, S. Y., & Fang, S. P. (2015). Developing a Chinese version of an Author Recognition Test for college students in Taiwan. *Journal of Research in Reading, 38* (4), 344-360.
- Cunningham, A. E., & Stanovich, K. E. (1990). Assessing print exposure and

- orthographic processing skill in children: A quick measure of reading experience. *Journal of Educational Psychology*, 82 (4), 733-740.
- Krashen, S. (1993a). The case for free voluntary reading. *Canadian Modern Language Review*, 50 (1), 72-82.
- Krashen, S. (1993b). *The power of reading*. Englewood, CO: Libraries Unlimited. (長倉 美恵子・塚原 博・黒澤浩訳 (1996) 『読書はパワー』金の星社)
- Martin-Chang, S., & Gould, O.N. (2008). Revisiting print exposure: Exploring differential links to vocabulary, comprehension and reading rate. *Journal of Research in Reading*, 31, 273-284.
- 小山内秀和. (2018). 保育・教職養成大学学生の読書行動と読書量：作家名再認識テストを用いた測定の試み. 浜松学院大学教職センター紀要, 7, 27-38.
- 小山内秀和・米田英嗣・古見文一・楠見孝. (2015). 日本人大学生における読書量の測定：日本語版 Author Recognition Test の作成. 日本心理学会第79回大会発表論文集.
- 大竹裕香, 奥村優子, 山田祐樹, 小林哲生. (2019). 日本における絵本知識測定リストの作成. 認知科学, 26 (2), 243-253.
- Pressley, M. (2002). *Reading instruction that works: The case for balanced reading* (2nd ed.). New York: Guilford.
- Stanovich, K. E. (1986). Matthew effects in reading: Some consequences of individual differences in the acquisition of literacy. *Reading Research Quarterly*, 21, 360-407.
- Stanovich, K. E., & West, R.F. (1989). Exposure to print and orthographic processing. *Reading Research Quarterly*, 24, 402-433.
- Swanborn, M. S. L., & de Glopper, K. (1999). Incidental word learning while reading: A meta-analysis. *Review of Educational Research*, 69, 261-285
- Swanborn, M. S. L., & de Glopper, K. (2002). Impact of reading purpose on incidental word learning from context. *Language Learning*, 52, 95-117.